

# しゃらりん

11

2006/4

親鸞の鼓動・御絵像を語る②

## 「安城の御影と熊皮の御影」

両御影をフルカラーで掲載！

シロの間法見聞録⑤

「仏さまの弟子として」が完成！

教区アラカルト

「戦争展 / ガラスのうさぎ」



# 目次

contents

シロの聞法見聞録⑤「仏さまの弟子として」が完成！	3
親鸞の鼓動 御絵像を語る②「安城の御影と熊皮の御影」	4
教区アラカルト 戦争展／ガラスのうさぎ	8
子どもたちとやってみよう／世界の国々	10
アトリエしゃらりん／コラム	11
ちょっといこか／しゃらりんちゃん	12



## 散華【さんげ】

散華とは、花びらを仏前に散ずること。  
散華用には、生花を用いることもあるが、  
今は、通常、蓮弁型に裁断した、青・黄・赤・  
白・紫等の色をまじえた紙を用い、法要  
の軽重に従って散ずる。

『法式紀要』には、「華籠を方形なるもの  
と想定し、向かって右角より、拇指と食  
指とにて、花葩(はなびら)を取りて下  
方に散ず」と示してある。

『真宗事物の解説』より引用

## シロの聞法見聞録⑤

## 「仏さまの弟子として」が完成!

## この作品を製作して

今回のビデオのテーマは「仏さまの弟子として」です。物語の設定は、死去した独居老人の満中陰法要後の半日です。息子夫婦と孫娘が遺品を片付けていて、日記を発見し読んでいくうちに、自分たちが気づかなかった故人の苦悩・悲しみ、同時に帰敬式を受けるに至った思いもかけない仏法との出遇いの姿を知っていくというストーリーが展開します。

この老人は、先年に妻に先立たれ、独生独死の現実を日常生活のみならず人生そのものに領き始めた時に、妻の納骨先である別院の法話がきっかけとなり、聴聞の歩みを始めていったのです。当に「甲い」が、「訪い」に転じられてきたわけです。

またその故人の晩年の生き方に触れた遺族は、それぞれ子・嫁・孫としての血縁・人縁が、そのまま仏法相続の機縁へと深められていきます。仏弟子になるとは、自らを問い続ける人生を選ぶということなのです。

が、その問いは我々の思いから湧き出るものではなく、「日ごろのこころ」の底で、我々自身が問われ願われている真実に遇い続けることに他なりません。

宗祖は「『遇』は、もうあうという。もうあうともうすは、本願力を信じるなり。(真宗聖典543頁)」と語られ、いのちの願いに遇って歩む道が「生死出ずべきみち」としての往生道・仏弟子の歩みであると述べられます。

また自らが仏法に遇い続けることは、そのまま諸仏に遇い続けることでもありません。

## シロの聞法見聞録⑤

仏さまの弟子として



す。ビデオの後半で遺族が故人に出遇い直した事は、諸仏としての故人に初めて遇ったという仏事、つまりは「弥陀の御はからい」です。「釈迦・弥陀・十方の諸仏、みなおなじ御こころにて、本願念仏の衆生には、影のかたちにそえるがごとくしてはなれたまわず。(真宗聖典595頁)」と善導大師も語られ、宗祖も「弥陀を諸仏と申す。過度人道のこころなり。(浄土和讃・左訓)」と言われています。

仏法僧を三つに分別するのではなく、一つの如来本願の働き・いのちの根本の願いといただき続けることが、仏弟子としての出発点です。登場した人々は、実生活の悲喜の現実を通して一人一人の業(ありのままの姿)に出遇い、「願い」としてのいのち・「つながりとしてのいのち」に目覚めていくのです。(視聴覚伝道部 由上義孝さん)

## ビデオを観て

これまでとは一風変わって、コミカルなテレビドラマ仕立てのシロの見聞録でした。

ちよつとややこしいですが、亡くなったおじいさんの満中陰で集まった家族が、おじいさんの日記から、連れ合いを亡くしたおじいさんが仏教に出遇っていく姿を知るといふストーリーでした。

回想シーンの中で語られる、妻に先立たれ独り残されたおじいさんの無力感ややるせなさは見ているこちらにも伝わってくるものでした。しかし、おじいさんは縁あって仏法に出遇い、再び生きる力を得ています。失意の底から、自らの人生と向かい合って生きていこうとするおじいさんの力みなぎる姿が目につかぶよう印象的でした。そしてその中で、仏教徒としての名告りとして法名を頂いて生きていくということが描かれます。

法名を、死んでから貰う名前としてではなく、生きている今を名告っていく名前として頂いていく。ビデオの中の家族と一緒に、自らの法名、自らの仏教徒としての、人間としての名告りを考えてみてはいかがでしょうか。(久世)

# 親鸞の鼓動

七百五十年の響き



「安城の御影」と「熊皮の御影」の親鸞聖人のお姿は親しみを感じるのはないだろうか。それは一般普通寺院・末寺で安置している親鸞聖人絵像が座像であり、右方を向いておられ、像容や念珠の持ち方が両御影と似ているからである。それゆえ、両御影は現在日常的に拝見・合掌する聖人絵像の原形になっていると考えると考えてよいだろう。



## 御絵像を語る②

# 安城の御影 熊皮の御影

上場 顕雄

「安城の御影」は三河国（愛知県）碧海郡安城に伝来したのでその名で呼ばれる。聖人の門弟・専信房専海が絵師法眼朝円に描かせた。

専海は遠江国（静岡県）の出身で、高田門徒のリーダーである真仏の門下に入り、安貞二年（一二二八）聖人に面接したと伝える。また、建長七年（一二五五）専海は『教行信証』を  
書きし、同年この「安城の御影」を朝円に描かせた。したがって、聖人八十三歳の寿像である。聖人七十歳頃の寿像とされる「鏡御影」と比較すると、お顔の表情に年齢が感じられ、若干やせて頬にしわがみえる。

朝円に描かせた。したがって、聖人八十三歳の寿像である。聖人七十歳頃の寿像とされる「鏡御影」と比較すると、お顔の表情に年齢が感じられ、若干やせて頬にしわがみえる。

「安城の御影」は縦一二七・六センチ、横四〇・一センチで、上部の讚文は『無量寿経』（願生偈・十八願・東方偈）で、下部に「正信偈」（本願名号正定業）即横超截五惡趣の讚文がある。讚文は聖人直筆で、筆跡の基準とされている。

この御影の聖人は墨染の衣を着られ、五條袈裟あるいは墨袈裟とおもわれるものをかけておられる。襟元は薄茶色の帽子で、衣の下の着物は黒色で、その下に朱色の下衣が襟元と裾にちらつと見えている。お顔は右方を向かれ、太い眉、やや細いすどい目で、口元は何か話しかけるような独特の感をもっている。また、上置の上に座具を敷いて安座され、畳はいわゆる紋縁である。

存覚（本願寺第三代覚如上人の長男）はこの御影の拝見を所望した。すなわち、専海の寺跡である三河・願照寺（現本願寺派）を相続していた曾孫の照空房は文和四年（一二三五）この御影をもつて上洛した。存覚はその拝見記録ともいうべき詳しい内容を『存覚袖日記』に自ら書きとどめている。

それを若干紹介してみよう。たとえば、「御小袖ハ桑ノ巻染」、「御火桶ハ桑也」、「御敷皮ヲ被用狸皮」、「御草履ハ猫ノ皮」、「御鹿杖ハ桑ノ木」などと記している。

右掲のように聖人は狸の皮を敷いて安座しておられ、猫の皮で作られた草履をはいておられ、鹿杖は桑の木で、T字形の手をそえる部分も猫の皮が巻かれていたことなど、存覚はその材質を詳細に記している。

連子の間から赤い火の見える火鉢は寒い冬の日の法談を思わせる。また、聖人の日常生活あるいは身近に聖人を慕い親しみを感じるお姿のように思うのは筆者だけではないだろう。さらにいえば、聖人が衣姿で動物の皮などと接しておられることは、罪業意識と直面する門徒・民衆とともにあることを示すものであり、親鸞聖人の教えを語るものでもあると考える。



ところで、「安城の御影」は三本あることでよく知られる(本誓寺・専修寺蔵などの模写本は別)。それは本願寺第八代蓮如上人時代に模写されたからである。顕誓(蓮如上人の孫)の『反故裏書』に「右ノ御影、蓮如上人ノ御代メシノ木セラレ、二幅ウツサセ給ヒ、一本ハ山科ノ貴坊ニ安置、一幅ハ富田教行寺ニヲカセラレ侍リ」と記されている。

したがって、正本は西本願寺に蔵され、この模

写本の一本も同寺に蔵され、どちらも国宝の指定をうけている。模写本のもう一本は東本願寺に蔵され国の重要文化財に指定されている。



「熊皮の御影」は「安城の御影」と比べると火鉢や草履はなく、膝の前に二股の杖のみが置かれている。おそらく「安城の御影」を祖型として描かれたと考えられている。

外題に「四句文尊円親王、絵浄賢法橋」とあり、尊円親王は青蓮院門跡で書家として知られ、浄賢は『親鸞聖人伝絵』を描いた絵師で兩人とも南北朝時代(一三三三〜九二)初めの人物であることから、製作年代は「安城の御影」より約百年後とされる。

聖人が安座しておられる敷皮は白い剛毛を混えた熊皮であることから名称の由来がある。聖人の風貌はたくましい壮年期に描かれている。右上隅の讃文は先述の尊円親王筆で「行者宿報設女犯、我成玉女身被犯、一生之間能莊嚴、臨終引導生極楽」の六角堂参籠夢告の偈文である。

讃銘の文言といい、気迫に満ちた聖人のお顔などからすると、関東で家庭生活を営まれながら民衆に熱っぽく語りかける教化の姿勢が感じられる。壮年期に杖をもっておられることから、自ら足を運んで念仏の教えを説かれた姿をも推測できる。あるいは聖人の教えに共感し苦悩を内面に秘め、それを引き受けてのり超えようとする絵師の



心をも読みとれる「御影」と筆者は感じる。

なお、「熊皮の御影」は京都市伏見区の常福寺(大谷派)に伝来したがその詳細は明らかでない。昭和十七年(一九四二)赤松俊秀博士(京都大学)によって発見され、国の重要文化財に指定された。その後、奈良国立博物館に入った。

いずれにしても、紹介した2つの「御影」が原形となつて、後に金具などで装飾された礼盤に安座された「親鸞聖人絵像(御影)」として本山より末寺へ下附授与された。つまり礼拝像として寺院が所持し莊嚴させていたたくこと自体、無言の教化となり、常に原点復帰を志向する教団としてのあり方に寄与してきたといっても過言ではあるまい。

〔つえば・あきお／第5組圓徳寺住職・教学研究所属託研究員・文学博士〕



安城の御影



熊皮の御影

# 戦争展／ガラスのうめさぎ



去る2006年3月4日から30日まで、難波別院御堂会館北館ギャラリーにて戦争展が開催されました。今年も多数の方々に来場いただきました。また、期間中の14日には、難波別院講堂にて、アニメ映画「ガラスのうさぎ」の上映会を行い、168人のご参加をいただきました。

## 戦争展について

近年、毎年3月の約一ヶ月間、難波別院御堂会館北館ギャラリーで開催されている「戦争展」は当初、教区教化センターの事業の一つとして1985年に第1回目が開催されました。2000年度からは、大阪教区教化委員会専門部会「行事部」が実行委員会を設置して開催しています。

今年のテーマは「戦争・死と生『無言の伝言』」のちの叫びを聞く」ですが、このテーマは毎年9月頃より実行委員が、それぞれに関心を持っていることを話し合う中から生み出されてきます。会議では北朝鮮の拉致問題、自衛隊のイラク派遣、日本国憲法第9条改正の動き、小泉首相の靖国神社参拝についてなどその時々話題に

なっていることが話し合わせ、委員各々の戦争にたいする思いをぶつけ合い、最終的に実行委員会  
の総意としてテーマを決定しています。そこには  
メンバー全員の、二度と戦争を起こすようなこと  
があつてはならない、現在の日本の平和が戦争で  
失われた多くの犠牲のうえに成り立っているとい  
うことを忘れず、過去の歴史から教えられたこと  
を語り継いでいかななくてはいけない、という思い  
が込められています。

そしてセンターで所蔵する600点近い写真パ  
ネルの中から、その年のテーマに沿った内容のパ  
ネルを70〜80点選択し、新しく制作したパネ  
ルも合わせてキャプションを付して展示していま  
す。

また、2003年からは大阪城周辺に残る  
戦争遺跡や慰霊碑、友が島の砲台跡、高槻の  
タチソ（高槻地下倉庫の略称）、大阪府内各所





に残る戦跡や忠魂碑などを実行委員が現地取材し、撮影した写真を手作りでパネル制作し、ひとつのコーナーを設けて展示しています。  
併せて教化センター所蔵の戦争遺物の展示もしています。毎年南御堂に参詣に来られる方や道すがらふと立ち寄られる方など多くの方にご覧頂

き、アンケートにも様々な意見が寄せられます。これからも教化委員会の事業として継続していかねばならないと考えています。

(行事部・中島 裕さん)

### 映画「ガラスのうさぎ」を観て

「ガラスのうさぎ」は原作者高木敏子さんが60年前、12歳の少女であった時の体験を通して戦争を知らない子どもたちに戦争の悲惨さと恐ろしさ、平和と命の尊さを知ってほしいという願いから刊行され、映画化された。今回の映像化は3度目であり、アニメ化は初めてである。原作者の高木敏子さんは大のアニメーション嫌いである。しかし今回は、孫の世代に分かる映画を作ってもらうならやっぱりアニメだよという孫の言葉が背中を押したそうである。それだけに若い世代に、戦争が悲惨であり平和が尊いものであるということが爆弾を落とす側の視点ではなく、落とされる側の視点(12歳の少女の視点)で感動的に描かれていた。今世紀に入って2001年9月11日の同時多発テロに始まる平和の危機は、アフガニスタン、イラク戦争と続き、終結宣言のあとも尚、世界の国々を巻き込んで泥沼化している。今この時にもたくさんさんの悲惨さや恐ろしさを知り、その後の混乱と厳しい生活を生き抜きながら、平和への願いを渴望している人々の姿がオーバーラップしていた。また、一本の薪も惜しい時代に疎開の途中、駅で



米軍機の機銃掃射を受け、亡くなった父の火葬に薪を集め、運んでくれた人々の姿に御仏ごぼんの慈悲を感じずにはいられなかった。繋がりの中に生かされている私に気付かさせていた。焼け跡から、空襲の猛火で形が変わった「ガラスのうさぎ」こそ正に「命の尊さ」のシンボルのような気がしてならない。主人公の生きざまから混乱期のさ中であって人間の情の深さと優しさを授けられた。この映画からいろんなことを学ばせていただいた。決して反戦や啓発のための映画ではない。12歳の少女の孤独と悲しみの心の叫びがこの映画にあった。

(行事部・本多 勉さん)

# ヨッチーの やちどもたちと てみよう!

～ 席取りゲーム ～

メインゲームやお話の間のつなぎに最適のゲームです。ルール説明が簡単でかつ子どもたちの集中力UP!

司会者を中心にU字型に並べて椅子もしくは座布団に座らせます。

子どもたちが「はい」「いいえ」で答えられる質問をします。

「はい」なら手を挙げて、「いいえ」なら何もしません。

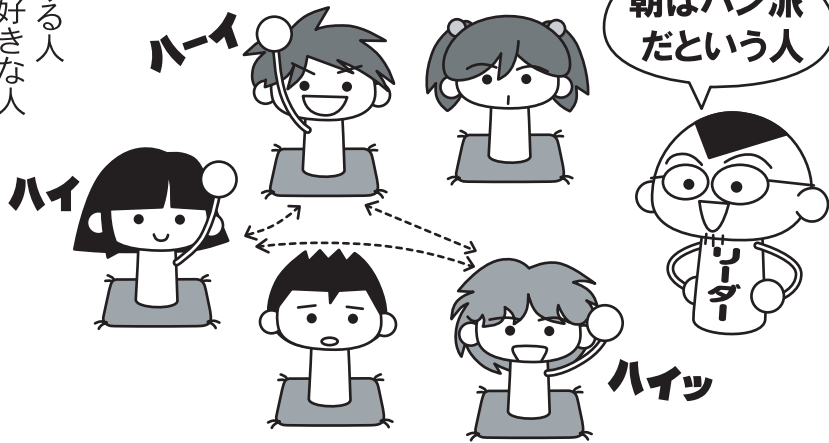
その時、「はい」と答えた者だけで席を交換します。

「う」なつたら勝ち、「い」はありませぬ。

次の準備ができたなら終わりです。

(例) 目玉焼きにはソースをかける人

ムシキングよりポケモンが好きな人  
まだ手を挙げていない人



日本とはまた違った形で仏教が伝わったタイ。「天使の都」と呼ばれる首都バンコクを中心に多くの寺院が点在しており、仏教への熱い信仰心が伝わってきます。一方、観光地としても人気があり多くの日本人が訪れています。多くの部分を知っており、また、多く知らない部分がある国、タイ。今回はそんなタイ (THAILAND) を調べてみました!

- 国旗: 1238年にクメール王国から独立、旧国名はシャムですが、1949年に「自由人」を意味するという「タイ」に改名。国旗は神聖とされる白象が描かれたものから、1917年に現在のものに変更されました。赤は国民と国家、青は王室、白は白象をあらわし、仏教への信仰を象徴しています。
- 人口: 約6197万人 (2004年現在)
- 首都: バンコク BANGKOK
- 政体: 立憲君主制。現元首はプミポン・アドゥンヤデー
- 国王、首相はタクシン・シナワット。
- 国花: ゴールデンシャワー (南蛮サイカチ) タイ語では「ラーチャ・プルック」といい「王の樹」という意味。4月から5月頃、藤のように房になって垂れ下がり咲く様はまさしく「黄金色のしずく」です。
- 国歌: Prathet Thai (プラテート タイ)
- 言葉: タイ語 日常会話では地方によって方言があり、山岳部では独自の言語を使用しています。
- 宗教: 90〜95%が仏教徒といわれ国王は最高擁護者であり、仏教徒でない王位に就くことができません。一部の華僑系仏教徒を除きほとんどが上座部仏教。男子は国王も例外なく一生に一度は仏門に入る習慣があります。寺の多くは学校を兼ねていて、地方では挙式も行なわれ又、選挙等の公民館の祭事場の役割も果たしています。
- イスラム教: 以前マレーシア領であった最南部の4県の約3/4の県民がイスラム教徒。
- キリスト教: 少数派ですがキリスト教の伝道師達は教育の普及、庶民の啓蒙活動を進め、伝来はタイの近代化に貢献したといえます。
- ピー: 精霊など、実体のない幽体のこと。本来は土着の精霊信仰ですが、ピーの存在抜きではタイの宗教は語れないほど生活に密着して現在タイ仏教と融合しています。現世祈願の意味合いが強く日本の神社で賽銭を投げて祈るのと似ています。

## 世界の国々 - タイ -

# アトリエしゃらりん

画・北川浩三



パソコン用データはこちらからダウンロード→ <http://www.icho.gr.jp/shararin/sozai/>

# しゃらりんちゃん

プロポーズ 編



## 伽楽可楽

琉球酒館・からから

沖縄の伝統の焼き物の像、シーサーのお出迎えを受けながら店内にはいと、琉球酒館の名のとおり、1Fの座敷の壁一面に並ぶ沖縄の全蔵元より集めた泡盛の大きな甕（かめ）が目に入ります。2Fはうす暗く、掘りこたつ式の大きなテーブルが二つあり、BGMも沖縄民謡でゆったりとした時間が流れています。本格的沖縄料理はメニューも豊富、2000円からコースがあり、2



500円のコースで、もずく、サラダ、ゴーヤチャンプルに始まりミミガー、海ぶどう、揚げ出し豆腐、豚の角煮、フイリチー、沖縄焼きそば、そのほか幾種類もの料理が大きなテーブルを埋め尽くします。そしてデザートは、サトウキビとシークワサー等から作られたブルーシールアイスと紅芋胡麻団子があり、美味しく、かなり満腹、満足でした。「くーす」という3年以上熟成

させた泡盛を楽しめ、ピールはオリオン（生ジョッキ650円）、チューハイはシークワサー入り（500円）と、徹底したこだわりぶりです。

北区のパナナホール1Fにも「くーすBARカラカラ」があるので、都会にいながら沖縄を楽しみたい方、ぜひどうぞ！



■南御堂周辺のお店紹介

発行日：2006年4月1日  
 発行所：真宗大谷派大阪教務所  
 大阪市中央区久太郎町4-1-11  
 TEL06-6251-4720  
 発行人：比良正士  
 編集： 第4組 常楽寺・久世見証  
 第9組 浄圓寺・難波美千子  
 第10組 是三寺・北川浩三  
 第12組 清澤寺・澤田 見  
 第17組 法親寺・廣瀬 俊  
 第27組 願隨寺・平野圭晋  
 第27組 信證寺・吉内利彦  
 第27組 浄宗寺・畠中晃子

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>

## 編集後記

◆子供報恩講等で、ゲームをするときに大切なことは、ゲームはシンプルなものにすることです。凝ったものによいとすればするほど、子供達には楽しいものでなくなり、単なる大人の自己満足になってしまいます。ルールや内容は簡単にしておきながら、そこに子供達が好きなものを組み込むのです。冒険心をくすぐるようなものが一番良いと思います。◆次に大切なのは、MCです。MCがしっかりしていればさらに楽しいものになります。細かくいえば、話術であったり、段取りであったりするのですが、何より大切なものは本気でやることです。大人が本気でやっていたら子供達はそれを感じ取り、応えてくれます。◆これからもメンバーの協力を得てゲームを紹介して皆様のお役に立てればと思います。そして、「しゃらりん」を通じて皆様と繋がっていきけることに感謝します。(丁)